

カンキツ 接ぎ木の裏ワザ!?

## カッターナイフで 夏の剥ぎ接ぎ

ながたに  
和歌山・長谷光浩

カンキツ類の品種の流行は、かつてのハッサク、イヨカン、ネーブル、宮本早生、楠本早生など、およそ10年サイクルで変わっていると感じます。現在、当園では花粉症の人にもよいとされるジャバラが大変な人気です。ネライ目の品種を増やしたり新品種を試すために、毎年50〜100本の樹を高接ぎ（切り接ぎ）更新してきました。ところが、切り接ぎの適期とされる3〜4



筆者（60歳）。ジャバラ、レモン、ハッサク、温州ミカンなどのカンキツ2haを栽培

果樹

当園では、カンキツ類の収穫が11月から始まり2月で終わりますが、続く2〜4月は1次加工・製品化・販売と加工部門の繁忙期が続く、倉庫や加工場での作業に追われます。そのため接ぎ木作業が少しずつ後回しになっていき、ここ数年は6〜7月に、梅雨の晴れ間をぬって作業するようになりました。ちょうど前年の貯蔵養分が消費されてしまった時期ではあ

3〜4月は加工の繁忙期  
はじめまして、紀伊路屋（長谷農園）の長谷光浩です。

樹が弱らないよう分殖する

## 春じゃなくても活着良好 夏に高接ぎ!

いろんな品種を試したいけど、高接ぎって難しそうだし、春は忙しいし……。いえいえ、夏でもできるし、手軽な道具でOKです!

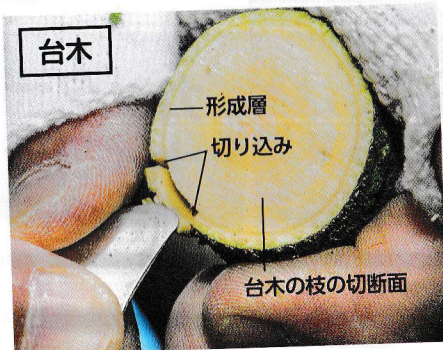


(赤松富仁撮影)



夏に高接ぎ！

## 剥ぎ接ぎは裏から活着が進む

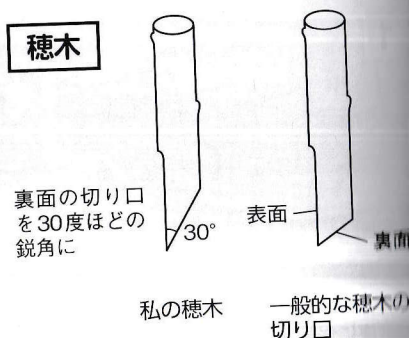


穂木の太さに合わせて2カ所で切り込みを入れ、皮を剥ぐ



活着して1年後  
裏面でも活着が進み、カルスが穂木を包み込むように巻いている

### 穂木



とところで、私は地元の農業高校の柑橋園芸科出身です。接ぎ木の仕方とも通り習いましたが、「成功させねば」

あるとき、カッターナイフならどうかと、穂木を削ってみました。少し切れ味が劣るものの、ほぼ思い通りに削れます。台木にもカッターナイフで切り込みを入れると問題なく皮剥ぎでき、接ぎ木包丁と遜色ないくらいによく活着するではありませんか。なんや、カッターナイフでもできるやん。これなら、刃先を折るだけで切れ味が復活するし、替え刃も用意

(和歌山県広川町)

### 穂木の裏面から活着が進む

また、梅雨が明けると陽射しが強く、台木の樹皮が日焼けするので、ホワイトパウダーを用意して、接ぎ木後すぐに台木に塗ってあげます。

肥でJA有田のミカン配合肥料をチツソ成分で10〜13kg/10aやっておき、6〜9月にかけて月1回の間隔でチツソ3kg程度ずつ分施しています。根に負担をかけないよう必要な分を少しずつ吸わせるイメージです。

りますが、問題なく接ぎ木しています。とはいえ、高接ぎはカンキツの樹にとつては大手術かと思えます。養水分をしつかり引き上げ、樹が弱らないように、元の樹の力枝を残しておき、肥料も多めに与えておきます。

温州ミカンの場合、10〜11月の秋

と緊張して手が小刻みに震えてしまい、「お前は接ぎ木に向いてない」といわれたこともありましたが、しかし、接ぎ木名人である私の叔父や地域のさまざまな方から教えてもらい、自分に合う部分を取り入れることで、今ではほぼ100%成功するようになりました。

活着率が上がった一番の要因は、趣味的にカンキツを育てている兼業農家の知人から教わった手法を取り入れたことでした。左ページの写真のように、台木の側面に2本の切り込みを入れることで、台木の皮をペロンとめくります。すると、形成層で皮が引き裂かれ、台木の内側・外皮側の両面で剥き出しになった形成層が、穂木の形成層としっかりと合わさるのです。

調べてみると、皮の硬いクリなどでも「剥ぎ接ぎ」として実践されている方法のようです。外皮は樹液の流れている時期でないとうまく剥けないの

### カッターナイフで十分できる

当初は片刃や両刃の接ぎ木包丁を使って剥ぎ接ぎしていました。しかし、接ぎ木包丁は切れ味がとても重要で、毎日の包丁研ぎにずいぶん時間をとられました。とくにシーズン初めはサビがあったりするので、カッターナイフがおすすめです。最初は片刃の接ぎ木包丁を使っていたのですが、替え刃が1枚あれば十分です。

剥ぎ接ぎは、台木を深く切り込む必要がないので、カッターナイフとの相性もよいと感じます。特別な道具も技術も必要なく、接ぎ木が苦手な方でも失敗なくできるはず。この方法で、カンキツ農家の皆さまがムリなく品種更新でき、儲かる農業経営の一助となれば幸いです。



## 台木を切る

刈り払い機のチップソーでだいたいの高さまで切る。チェーンソーより枝葉を細かく刻めて便利（枝葉はそのまま土に還す）



刻んだ枝葉



チェーンソーで目標の高さまで低く切る



ノコギリで切って接ぎ木面をきれいにし出す



力枝

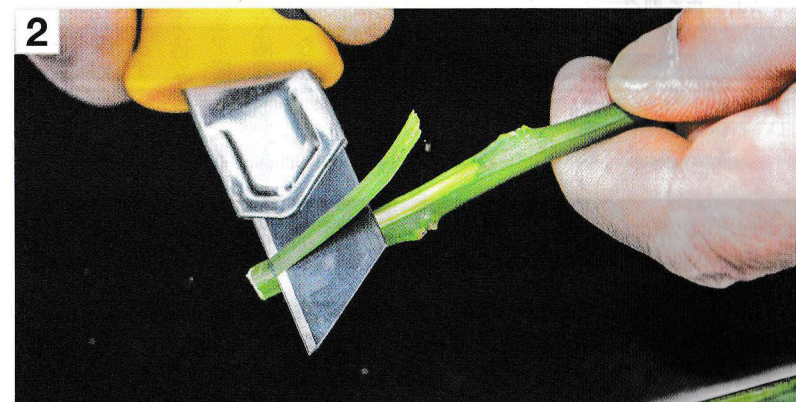
切り終えた台木。養水分を引っ張る力枝も1～2本残しておく（数年後に切る）

## 穂木を準備する



登録品種の穂木を購入。新聞紙とビニールに包んだ状態で冷蔵庫に保管

カッター  
ナイフで  
剥ぎ接ぎ



表面を削る。穂木は表面の切り口より上に2芽残した長さでカット



裏面は30度ほどの鋭角にスパッと切る



取材時の動画が、ルール電子図書館でご覧になれます。「編集部取材ビデオ」から。  
<http://lib.ruralnet.or.jp/video/>





夏に接ぎ木して活着。翌年5月に芽が吹いた頃の様子

春に接ぎ木すると春芽、夏芽、秋芽と出て、両手で示した程度の長さになるが、夏の接ぎ木では夏芽と秋芽しか出ず、新梢の背丈が短い。台風にも強いので、新梢を支柱で固定する必要がない。なお、夏芽と秋芽は矢印の位置で摘心した。その後は芽かきせずに枝数を増やす



接ぎ木後、  
1年  
たった樹

## 剥ぎ接ぎをする

上から見たところ。  
形成層まで届くように  
に切り込む



台木の側面に切れ目を2本入れる



カッターナイフ本体のお尻に  
ついてる爪やマイナスドラ  
イバーを使って皮を剥ぐ

爪



穂木を差し込み、表面、裏面を台木の形成層（台木側・外皮側の両面にある）にピッタリくっつける

## メデールテープ

12 メデールテープで穂木をしっかりと巻き付ける。すべての枝に接ぎ木し終わったら、台木にホワイトンパウダーを塗って日焼けを防ぐ



ビニールテープで台木部分をガッチリ留めて、切り口を木工用ボンドとアルミホイル（あるいは接ぎ木保護フィルム）で覆う。直径5cm以上の枝なら2カ所で接ぐ